

—食と緑が支える豊かな「あま」をめざして—

# 食と緑の海部地域レポート

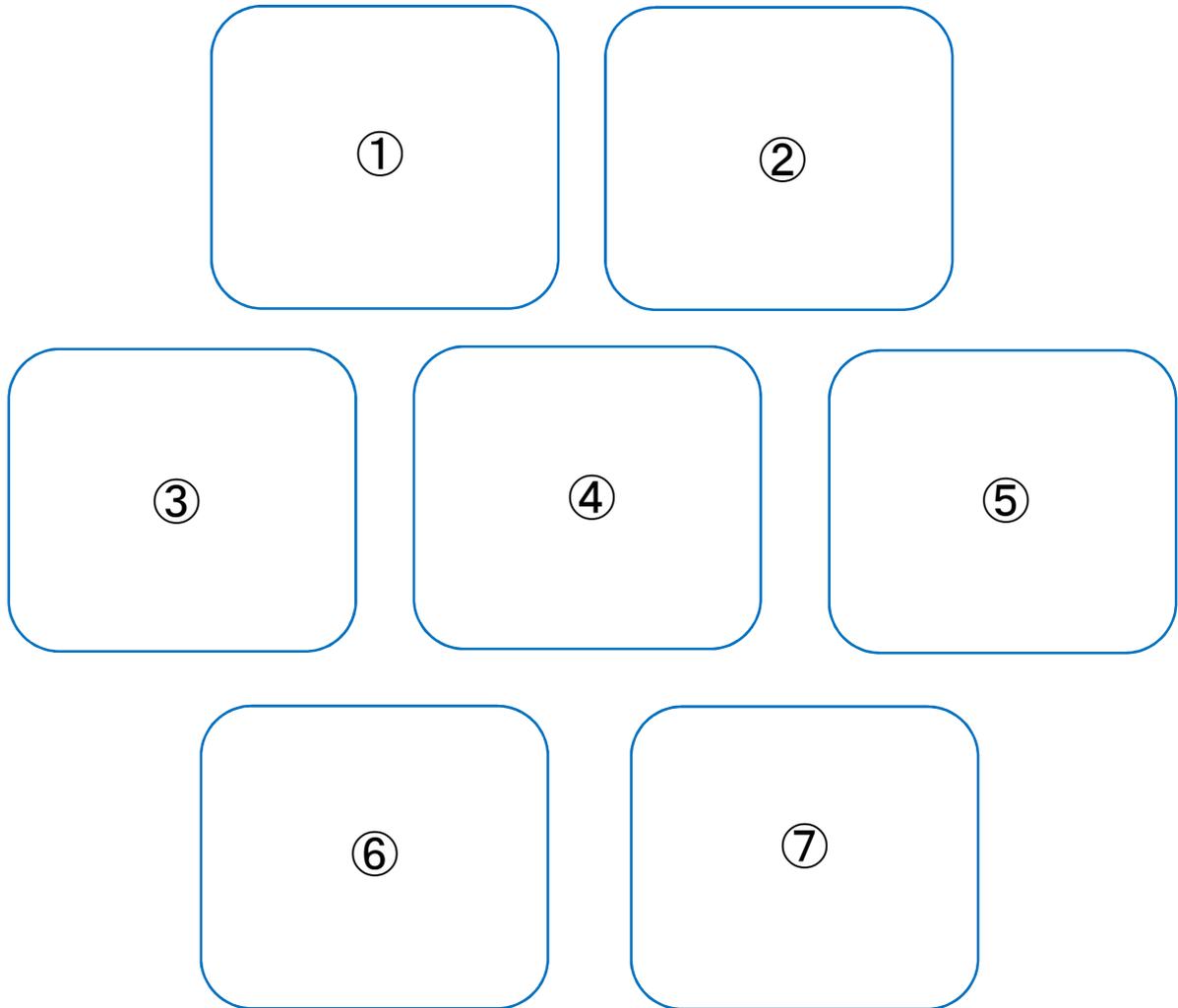
## 2022



令和4年8月  
海部農林水産事務所



==表紙の写真説明==



- ①レンコン栽培などで利用が進む農業用ドローン（愛西市）
- ②県産木材を使用し作成した木のコースター（弥富市）
- ③排水機場の学習会（大治町）
- ④愛知県海部総合庁舎での花きディスプレイ（津島市）
- ⑤排水路の改修（津島市）
- ⑥南部カントリーエレベーターの竣工式（弥富市）
- ⑦ハス花のバラ受け選花出荷（愛西市）

# 食と緑の海部地域レポート 2022 目次

1	食と緑の海部地域レポート作成の趣旨	1
2	重点推進事項の取組状況	2
(1)	担い手の確保育成	
	取組目標 1 : 新規就農者の確保	2
(2)	水田農業の維持・発展	
	取組目標 2 : 水田の活用割合	3
(3)	園芸産地の活性化	
	取組目標 3 : 産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援	4
	取組目標 4 : 地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」ネットワーク会員・推進店の新規加入	4
	取組目標 5 : 農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援	5
(4)	農業生産基盤の維持	
	取組目標 6 : 農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新	7
(5)	農村の防災・減災対策の推進	
	取組目標 7 : 農業用排水機場の整備更新	8
3	重点的な取組の目標達成状況	9
4	「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」の SDGs 達成への貢献	10

## 1 食と緑の海部地域レポート作成の趣旨

愛知県は、将来にわたる安全で良質な食料等の安定的な供給の確保とその適切な消費及び利用、農地や森林等の有する多面的機能の発揮による安全で良好な生活環境の確保を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を2004年4月に施行しました。

この条例に基づき、食と緑に関する施策の基本的な方針として、2005年に「食と緑の基本計画」を策定して以来、5年ごとに見直しを行い、現在は第4期目の計画となる「食と緑の基本計画2025」（以下「基本計画」という。）を2020年12月に策定、公表しました。

海部農林水産事務所では、この基本計画のめざす姿の実現に向け、海部地域の特徴と課題を踏まえた具体性の高い実行計画として、海部地域重点推進プラン（以下「プラン」という。）を2021年3月に策定し、基本計画の推進とともに地域として重点的に推進しています。

この地域レポートは、プランの進行管理の一環として、プランの重点推進事項を的確に推進するため、2021年度に実施した主な取組の内容や地域の特徴的な取組事例を取りまとめたものです。



### 「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例(平成十六年三月二十六日条例第三号)」

#### == 抜 粋 ==

第三条 食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくりは、次に掲げる事項が推進されることを基本理念として行われなければならない。

- 一 将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。
- 二 将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。

## 2 重点推進事項の取組状況

### (1) 担い手の確保育成



#### 取組目標 1：新規就農者の確保

#### ○就農相談の実施

##### 【取組内容】

新たに就農を希望される方を支援するため、農業改良普及課内に「農起業支援センター」を設置し、個人、企業等からの相談に対応しています。

令和3年度には計31人（延べ39回）の相談を受け、農業次世代人材投資事業や青年等就農資金の紹介、栽培に関する農業技術の習得等、就農に向けて計画的に準備ができるように支援しました。



【新規就農者セミナー】（津島市）

< 新規就農者数 >

(人)

区分	23年度～27年度	28年度～2年度	3年度	小計
新規学卒	16	15	0	0
Uターン	28	29	1	1
新規参入	10	16	1	1
中高年Uターン	6	9	1	1
中高年新規参入	2	0	1	1
合計	62	69	4	4

※中高年：45歳以上65歳未満

※各年度とも前年5月2日から当該年5月1日までの1年間に就農した人数

##### 【今後の取組】

令和3年4月に愛知県立農業大学校に設置された「農起業支援ステーション」と連携し、就農希望者に対する就農相談を継続します。また、管内市町村・農業協同組合の担当者等で構成する「新規就農者連絡会議」で、就農希望者や新規就農者に関する情報を共有し、円滑な就農を支援します。

令和4年度から、あまイチゴ組合の生産者やJAあいち海部等関係機関で構成する「いちご新規就農支援協議会」において、イチゴでの就農希望者に対する研修が開始されます。実習や座学を通して、栽培技術や知識の習得を支援します。

## (2) 水田農業の維持・発展



### 取組目標 2 : 水田の活用割合

#### ○担い手への一層の農地集積

##### 【取組内容】

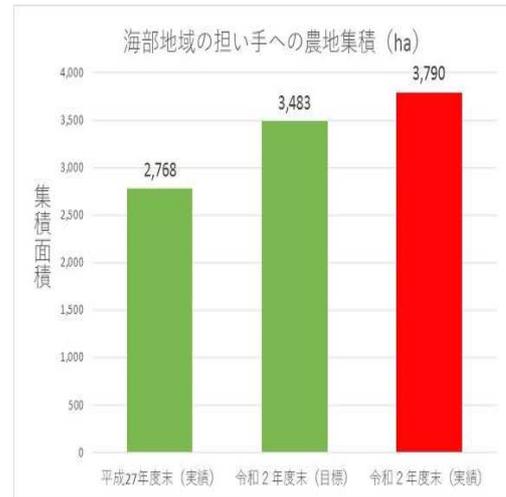
平成26年度から農地集積を目的として新たに事業として始まった「農地中間管理事業」等により、農地の担い手への集積面積は5年間で1,022ha増となりました。

その結果、海部地域における令和2年度末の担い手への農地集積は、目標を大きく超え、3,790haとなり、集積率では51.7%となりました。

この集積率は、県全体の集積率40.0%を大きく上回り、県内でも有数の先進地域となっています。

##### 【今後の取組】

令和4年度の制度改正により法定化された地域計画の市町村における策定作業への支援を通じて、農地の担い手への集積を進めます。



#### ○補助事業の活用

##### 【取組内容】

あいち海部農協南部地区の3つの共乾施設は、老朽化が進み、今後、改修等により多額の費用が必要となることを見込まれていました。施設の運営コストを低減し、担い手への負担を軽減するため、同農協が、3つの共乾施設を1つの施設に再編するにあたり、強い農業・担い手づくり総合支援交付金の活用を支援しました。

再編により整備された南部カントリーエレベーターは、令和4年5月9日に竣工式が行われ、令和4年産の小麦から稼働しています。



【南部カントリーエレベーター】  
(弥富市)

##### 【今後の取組】

今後も補助事業を活用した取組を支援するなど、関係機関が一体となった各種支援策を実施することで、担い手による水田のフル活用を目指します。

### (3) 園芸産地の活性化



**取組目標 3：産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援**

#### ○補助事業の活用

##### 【取組内容】

令和3年度は、あいち型産地パワーアップ事業を活用し、「いちご」と「トマト」の品目において産地戦略に基づくハウスの新設や農用機器の導入などを支援しました。

##### 【今後の取組】

今後もあいち型産地パワーアップ事業等の補助事業の活用を促進し、産地の生産力の強化等を図ります。



【新設したハウス（いちご）】（愛西市）

**取組目標 4：地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」ネットワーク会員・推進店の新規加入**

#### ○「いいともあいち運動」等による地産地消の推進

##### 【取組内容】

令和3年度は、「いいともあいち運動」ネットワーク会員7会員と推進店9店舗を新規登録しました。

また、いいともあいちフェイスブックにおいて、新規ネットワーク会員及び推進店、地産地消の商品やイベント等の情報を発信しました。

##### 【今後の取組】

今後もいいともあいちネットワーク会員及び推進店の加入促進を行うとともに、いいともあいちフェイスブックによる海部地域の会員や地産地消の商品、イベント等の情報の発信を行います。



【推進店の菓子】（津島市）

取組目標 5 : 農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援

○農林水産物への理解促進のためのイベント開催、支援

- ・海部地域いいともあいち即売会の開催

【取組内容】

「いいともあいち運動」推進の取組として、令和3年11月6日に、あいち海部農業協同組合愛菜耕房店頭で、海部地域いいともあいちネットワーク会員による地元産のれんこんやいちご、白いちじく等を使用した加工品の即売会を開催しました。

商品購入者には名古屋グランパスとのコラボリーフレットを配布し、「いいともあいち運動」をPRしました。



【いいともあいち即売会】(津島市)

【今後の取組】

今後も海部地域いいともあいち即売会等の開催により「いいともあいち運動」を推進します。

- ・「森林（もり）の学習」の開催

【取組内容】

森林の働きや木材の性質を知り、親しみを感じてもらうために「森林（もり）の学習」を津島市立西小学校始め4校で延べ5回開催し、172人の児童が参加しました。

開催校
津島市立西小学校
愛西市立勝幡小学校
愛西市立西川端小学校
弥富市立十四山西部小学校（2回実施）



【森林の学習】(津島市)

【今後の取組】

森林地域の少ない海部地域においても、児童生徒への森林環境教育が必要とされていることから、今後も小中学校への訪問授業を実施します。

- ・「きになる?!木のおへや」の開催

**【取組内容】**

令和3年11月6日、7日の2日間、弥富市の海南こどもの国で開催された「秋まつり」において、「きになる?!木のおへや」と題したイベントを開催しました。

本県産の木を使用したコースターづくりや木の名前当てクイズに多くの子どもたちが参加し、木に触れ、ぬくもりを感じ、木に親しんでもらうことができました。



**【木のコースターづくり】(弥富市)**

**【今後の取組】**

愛知県木材利用促進条例の制定により、更なる木材の利用促進が期待されています。今後もイベント等において県民が木材に触れる機会を提供することで、木材利用の普及啓発に取り組めます。

- ・「金魚の学校」の開催

**【取組内容】**

令和3年の夏から秋にかけて、弥富金魚漁業協同組合と県水産試験場の共催で、「金魚の学校」が開催され、主要な産地である弥富市とともに連携、協力をしました。

「金魚の学校」は、金魚について理解を深めてもらうことを目的に、金魚養殖の歴史や飼育の方法など、クイズを交えて授業形式で学んでもらうもので、県内外の公園など4会場で延べ10回開催され、295人の子どもたちが参加しました。



**【金魚の学校】(弥富市)**

**【今後の取組】**

近年は、趣味の多様化などによる需要が低迷するとともに、生産地の都市化や生産者の高齢化と後継者不足などにより、金魚の生産量は減少傾向にあるため、今後も本県の金魚養殖業の振興を目的に、関係機関や関係団体の実施するイベントなどに連携・協力をします。

#### (4) 農業生産基盤の維持



### 取組目標 6 : 農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新

#### ○特定農業用水管水路特別対策事業等 用水管工事

##### 【取組内容】

令和3年度において、津島市、愛西市、弥富市、あま市、蟹江町、飛島村の15地域で、老朽化した石綿セメント管や塩化ビニル管の更新を行いました。

##### 【今後の取組】

未改修の石綿セメント管等がまだ多く残っているため、引き続き更新を進めていきます。



【石綿セメント管の撤去】(弥富市)

#### ○地盤沈下対策事業等 排水路工事

##### 【取組内容】

令和3年度において津島市、愛西市、弥富市、あま市で地盤沈下等により排水機能が低下した排水路や老朽化した護岸等の改修を9路線で行いました。

##### 【今後の取組】

早期完了できるように今後も引き続き改修工事等を進めていきます。



【排水路の改修】(弥富市)

## (5) 農村の防災・減災対策の推進



### 取組目標 7 : 農業用排水機場の整備更新

#### ○たん水防除事業・緊急農地防災事業

##### 【取組内容】

令和3年度に、善太新排水機場（蟹江町）の更新工事を完了しました。

また、令和3年度において、津島市、愛西市、あま市、蟹江町、飛島村、稲沢市に関する9か所の排水機場で更新工事等を行いました。

また、排水機場等の役割、必要性についてPR活動を行っていきます。

令和3年度は、4か所の排水機場（愛西市、弥富市、大治町）において、小学生を対象にした排水機場学習会を5回開催しました。

令和3年度実績

市町村	排水機場名	学校名
愛西市	勝幡排水機場	勝幡小学校
弥富市	鍋田南部排水機場	大藤小学校
弥富市	鍋田南部排水機場	栄南小学校
弥富市	新孫宝排水機場	十四山東部小学校
大治町	円楽寺排水機場	大治西小学校

参加人数：4年生 合計201名参加



【排水機場の整備】（飛島村）



【排水機場での現地学習会】（弥富市）

##### 【今後の取組】

防災・減災対策を推進するため、今後も引き続き排水機場の整備更新を進めていきます。

### 3 重点的な取組の目標達成状況

重点推進事項	番号	取組目標	実績の推移					
			目標数値	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
担い手の確保育成	1	新規就農者の確保	5年間で60人	4人				
水田農業の維持・発展	2	水田の活用割合	100%	105.4%				
園芸産地の活性化	3	産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援	5年間で5件	3件				
	4	地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」ネットワーク会員・推進店の新規加入	5年間で20会員	7会員				
	5	農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援	毎年5イベント	7イベント				
農業生産基盤の維持	6	農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新	受益面積： 5年間で2,194ha	0ha				
農村の防災・減災対策の推進	7	農業用排水機場の整備更新	受益面積： 5年間で1,777ha	1,049ha				

## 4 「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」のSDGs達成への貢献

### SDGs達成への貢献について

今、様々な場所で耳にするSDGs(持続可能な開発目標)。

自然資本や環境に立脚した食料・農林水産業・農山漁村分野は、SDGsが目指す環境・経済・社会の統合的向上において果たす役割が非常に大きく、他の分野以上にSDGsの実現に貢献することを求められます。

そこで、「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」では、SDGsへの貢献を明らかにするため、重点推進事項ごとに、関連するゴールのアイコンを掲載しました。



### 目標2 飢餓をゼロに

目標達成に向けて、生産性の向上、気候変動等への適応、持続可能な食料生産システムを確保することとしています。

プランでは、夏季高温による品質低下に応じた高温耐性水稻新品種の導入、環境モニタリングデータを活用した施設の制御、ドローンの利用による病虫害防除作業の省力化に取り組むこととしています。

### 目標5 ジェンダー平等を実現しよう

目標達成に向けて、政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保するとされています。

プランでは、女性農業者が経営主のパートナーとしての意識を持ち、主体的に経営参画していくために40歳代までの女性農業者を対象とした講座（ヤングミセスセミナー）等の開催に取り組むこととしています。

## 目標8 生きがいも経済成長も

目標達成に向けて、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の雇用及び働きがいのある人間らしい仕事等を達成するとされています。

プランでは、就農間もない農業者を対象とした講座等の開催により円滑な就農に向けた支援に取り組むこととしています。

## 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

目標達成に向けて、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させるとされています。

プランでは、補助事業等を活用して農業機械等の導入や施設の整備等を推進し、生産・出荷基盤の強化を行うこととしています。また、農業基盤である農地の用水施設の更新にも取り組むこととしています。

## 目標11 住み続けられるまちづくりを

目標達成に向けて、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さを目指す総合的政策及び計画を導入・実施するとされています。

プランでは、用水施設の老朽化や、地盤沈下による機能の低下を防止するため、用水施設の更新を、また、豪雨等による被害を防ぐため、排水施設の更新を行うこととしています。

